ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.									

シートNO.

ボーリング名	No.3(測点No.70+3.0)	調査位置						北　緯	36 ° 48 ' 20.0000 "
発 注 機 関	栃木県大田原土木事務所			調査期間	2008-02-25 ～ 2008-03-01			東　経	140 ° 01 ' 09.0000 "
調 査 業 者 名		主任技師		現　場 代 理 人		コ　ア 鑑 定 者		ボーリング責任者	
孔 口 標 高	194.55 m	角度	180° 上 90° 下 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 90° 水平 0° 30.00 °	使用機種	
総 掘 進 長	32.45 m							試 錐 機	ハンマー落下用具
								エンジン	ポ ン プ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) ／ 測定月日
1	193.45	1.10	1.10		黒ボク (Kb)	黒褐			粘性,含水中位 有機質を呈す 上部植物根混じる		
2 3	190.65	2.80	3.90		ローム (Lm)	褐～暗褐		軟らかい	粘性中位,含水やや多い 赤褐色および黄褐色の軽石混じる 1.9～2.3m間は軽石の混入が多い 2.3～2.9m間は暗褐色を呈し,やや固結している 2.9m以深は軽石,スコリア多く混じる		
4 5 6 7 8 9 10	183.95	6.70	10.60		砂質シルト (MS)	淡灰～淡青灰		中位	3.9～5.8m間は淡灰色を呈し砂分の混入が多い 5.8～6.7m間はやや緑青灰色を帯び,強風化凝灰岩状を呈す 白色の浮石多く混じる 6.7～8.2m間は乳青灰色を帯び粘土質を呈す 粘性強く,含水多くやや軟弱である 8.2～10.6m間は淡緑灰～淡灰色を呈す 粘性弱く,含水は少ない 全体に砂分の混入が多くやや固結している 9.1～9.7m間は暗緑色を帯び細砂の混入が多い		02/27 5.70
11 12 13 14 15 16					粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐灰～暗茶褐～暗褐～暗褐灰			礫はφ2～50mm程度の円,亜円礫,風化礫主体である 礫間は多量の粘土と粒径不均一な砂からなる 上部の12.5m付近までは礫の混入が少なく,固結した凝灰質粘土状を呈す 12.5～15.5m間は,やや暗茶褐色を呈し,礫の混入が多い 15.5～18.5m間は,暗褐色を呈す 18.5m以深は,暗褐灰色を呈す 礫は風化し粘土化,砂状化しているところも少なくない 全体にφ100mm程度の玉石が点在する 玉石の礫種は殆んどが安山岩質のものである 非常に密実である		

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15	1 / 18	1 / 12		2 / 30	2
1.45					
2.15	1 / 19	1 / 11		2 / 30	2
2.45					
3.15	1 / 15	1	1 / 6	3 / 31	3
3.46					
4.15	2	3	3	8 / 30	8
4.45					
5.25	3	3	2	8 / 30	8
5.55					
6.15	2	3 / 11	2 / 9	7 / 30	7
6.45					
7.15	1 / 11	1 / 9	1	3 / 30	3
7.45					
8.15	2	2	4	8 / 30	8
8.45					
9.15	2	3	3	8 / 30	8
9.45					
10.15	2	2	3	7 / 30	7
10.45					
11.15	13	13	24 / 8	50 / 28	>50
11.43					
12.15	17	17	16 / 5	50 / 25	>50
12.40					
13.15	24	17	9 / 4	50 / 24	>50
13.39					
14.15	50 / 3			50 / 3	>50
14.18					
15.15	26	24 / 8		50 / 18	>50
15.33					
16.15	16	16	18 / 5	50 / 25	>50
16.40					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果
4.50	孔内水平載荷試験 E=15.290MN/m2
5.10	

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法

室内試験

掘進月日: 02/26

17					粘土混じり砂礫 (GS-C)	暗褐灰～暗茶褐～暗褐灰～暗褐灰				礫はφ2～50mm程度の円,亜円礫,風化礫主体である 礫間は多量の粘土と粒径不均一な砂からなる 上部の12.5m付近までは礫の混入が少なく,固結した凝灰質粘土状を呈す 12.5～15.5m間は,やや暗茶褐色を呈し,礫の混入が多い 15.5～18.5m間は,暗褐色を呈す 18.5m以深は,暗褐灰色を呈す 礫は風化し粘土化,砂状化しているところも少なくない 全体にφ100mm程度の玉石が点在する 玉石の礫種は殆んどが安山岩質のものである 非常に密実である			16.15	16	16	18/5	50/25	>50															02/27
18													16.40																						
19													17.15	50/8			50/8	>50																	
20													17.23																						
21													18.15	50/7			50/7	>50																	
22													18.22																						
23													19.15	42	8/2		50/12	>50																	
24													19.27																						
25													20.15	16	18	16/8	50/28	>50																	
26													20.43																						
27													21.15	50/3			50/3	>50																	
28													21.18																						
29													22.15	40	10/1		50/11	>50																	
30													22.26																						
31													23.15	50/6			50/6	>50																	
32													23.21																						
													24.15	44	6/1		50/11	>50																	
													24.26																						
													25.15	50			50/10	>50																	
													25.25																						
													26.15	27	23/2		50/12	>50																	02/28
													26.27																						
													27.15	50/7			50/7	>50																	
													27.22																						
													28.15	42	8/1		50/11	>50																	
													28.26																						
													29.15	50			50/10	>50																	
													29.25																						
													30.15	50/6			50/6	>50																	
													30.21																						
													31.15	50/9			50/9	>50																	
													31.24																						
	162.10	21.85	32.45										32.15	18	15	17	50/30	50																	02/29
													32.45																						